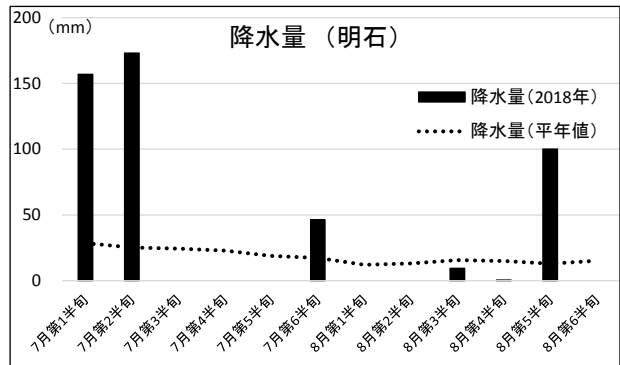
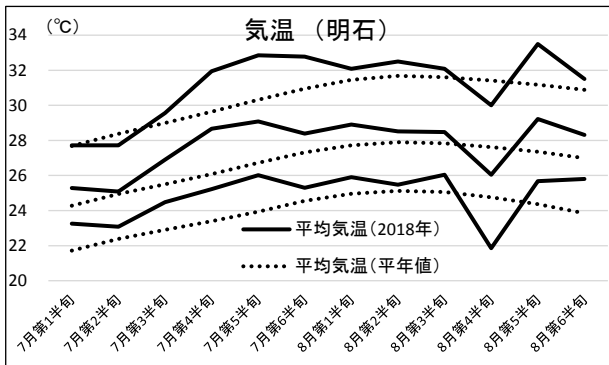


平成30年度 東播磨地域稲作気象台情報 第3号

発行：平成30年9月7日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：7～8月)

8月第4半旬を除き、7月第半旬からこれまでの気温は平年に比べて非常に高く経過しました。また、7月中旬から8月下旬にかけての約6週間の降雨は平年よりも少なく経過しました。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西市] の気象感応調査結果：8月15日現在)

品種	調査日	草丈	茎数	葉数	出穂期
キヌヒカリ	8月5日	100cm (平年比106)	305本/m ² (平年比82)	14.0枚 (平年差+0.2)	8月6日 (平年比-1)
ヒノヒカリ	8月15日	80cm (平年比95)	572本/m ² (平年比136)	15.4枚 (平年差+0.6)	-

3. 病害虫発生程度 (東播磨管内13定点ほ場での予察調査結果：9月6日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石播磨	中	中	無	多	無	多	多	無	多	少
稲美	無	少	無	無	無	中	多	無	少	無
加古川北部	少	少	無	少	無	中	甚	無	少	多
高砂・加古川南部	中	中	無	少	無	甚	甚	無	多	無

	病害調査							虫害調査 (見取り)			
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミズゾウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石播磨	無	無	無	無	/	無	無	無	/	無	無
稲美	無	無	少	無	/	無	無	無	/	無	無
加古川北部	無	無	無	無	/	無	無	無	/	無	無
高砂・加古川南部	無	無	少	無	/	無	無	無	/	無	無

管内全域で、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイの密度が、前回の調査時（8月2日）よりも増加しています。

明石・播磨および加古川北部の3カ所の定点において、要防除密度を超えるカメムシの発生が確認されました。

高砂地域で、紋枯病の防除が必要な発病株率となっている定点がありました。

4. 今後の栽培管理について

(1) 水管理・刈取り <ヒノヒカリ>

稲の根の活力を保つため、収穫の1週間から10日前までは間断灌水を続けましょう。温度が高く、落水時期が早いほど、乳白粒や腹白粒、未熟粒などが増え、整粒歩合が低下する傾向があります。品質低下を避けるために、早い時期からの落水は控えましょう。また、落水後も、あまり乾燥が続くようであれば、走り水を行いましょう。

刈り取り時期の目安は、出穂後40～45日頃、籾の黄化率（黄色くなった籾の割合）が85～90%になったときです。刈り遅れは、胴割れ米や穂発芽の発生、玄米の光沢落ち、茶米の増加の原因となるので、ほ場や稲の状態をよく確認し、**適期収穫**に努めましょう。

*水稻の成熟期の予測

下記URLもしくは右のQRコードから「水稻生育予測システム」にアクセスすることで、主な水稻品種の成熟期予測を見ることができます。

http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/server_index.html



(2) 病虫害防除

<斑点米カメムシ類>

これから乳熟期を迎えるヒノヒカリ等の晩生品種では、斑点米の原因となるカメムシ類への対策が必要です。要防除密度のほ場も見られますので、基幹防除をしていないほ場は早急に薬剤防除を実施しましょう。なお、カメムシ類への薬剤防除は、ウンカ類やツマグロヨコバイの防除効果も併せて期待できます。ただし、粉剤等を使用する場合は、薬剤が株元までしっかり届くよう丁寧に散布しましょう。

<トビイロウンカ（秋ウンカ）>

前回の調査に引き続き、今回もトビイロウンカの発生は確認されませんでした。成熟期の遅いヒノヒカリ等では、9月下旬以降の発生・増殖による坪枯れが、収量・品質に大きく影響します。トビイロウンカは稲の株元に生息しますので、発生していないか注意して観察を続けましょう。

<縞葉枯病・ヒメトビウンカ>

近年、ヒメトビウンカがウイルスを媒介する縞葉枯病の増加が問題となっています。出すくみ症状やゆうれい症状のある感染株を見つけた場合は、株ごと抜き取りほ場の外に持ち出し処分しましょう。また、越冬虫の密度を下げるため、積極的に稲刈り後のほ場耕起を実施しましょう。

(3) 台風対策

今年は台風が多数発生しており、東播磨地域でも暴風雨による被害が発生しています。

- ①事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、排水対策を行いましょう。
- ②台風時は蒸発散が盛んになり、吸水量も多くなるので、台風情報などに注意し、早めに深水湛水しましょう。深水湛水は稲体の激しい動揺を防ぎ、機械的損傷も軽減できます。
なお、台風通過後も水田が乾かないように十分灌水しましょう。
- ③冠水したら、速やかに通常の水深まで水を落としましょう。
汚濁水が流入した場合は、早期に排除し、新しい水と入れ換えましょう。
- ④水田に海水が侵入した場合は、直ちに排水し、真水と入れ換えましょう。出来ればかけ流しを行って除塩しましょう。また、干ばつ状態にしないように気を付けましょう。
- ⑤幼穂形成期以降は、葉の損傷で、根の老化も急速に進むので、土壌中に酸素を補給し、根の活力維持をはかるため、間断灌水を励行しましょう。
- ⑥早期水稻で収穫直前のものはできるだけ台風前に収穫しましょう。
- ⑦台風通過後は、白葉枯病、穂いもち、紋枯病、トビイロウンカが多発するので、発生状況を確認し、防除を徹底しましょう。また、籾ずれなどによるいもち病菌、ばか苗病菌、その他雑菌の侵入も多くなるので早期に防除しましょう。

◎薬剤使用にあたっては、必ず使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を確認、遵守し、農薬の飛散防止に努めましょう。

発 行	: 東播磨農業改良普及事業協議会 (構成員: 明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、加古川農業改良普及センター)
調査協力	: NOSAI東播磨、NOSAI兵庫、JA全農兵庫
お問合せ先	: 加古川農業改良普及センター 地域課 JAあかし 本店 経済課
	電話 (079) 421-9354 電話 (078) 934-5800